



第2212号

編集兼発行人 埼玉県教職員組合 情報宣伝部 さいたま市浦和区高砂 3-12-24 教育会館内 電話048 (824) 2511 (一部 10円) 週刊 毎週水曜日発行

(組合員の購読料) は組合費に含む

▽埼玉教組へメール



▽埼玉教組HP



【平和と国際連帯の教育分科会】

正盛大眺さん (三郷・中学校)

中学校社会科で行った「ホロコースト」についての授業実践をまとめました。私は、高校生
のとき、初めてホロコーストについて学習しました。その時に、こんな悲惨なことがあったのかと驚いたことを覚えています。その後、私は学習を進めて、「ホロコーストの種は誰もが持っている。大事なはその種を芽生えさせないことだ」という言葉が印象に残っています。ホロコーストという歴史的な事実から、私も含めた現代に生きる若者に学ぶべきことは大きいと考えて実践しました。



平和と国際連帯の教育分科会

教育のつどい 2021 埼玉集会

子どもを真ん中につどい語った分科会 「やっぱりリアル教研はいい」

11月14日(日)、県立所沢高校をお借りして、分科会を行いました。25に分かれた分科会に265人の参加者が集まり、熱い討論を交わしました。新しい仲間も増えました。参加者の声をご紹介します。

【教育条件をよくする運動分科会】

金井裕子さん (さいたま・小学校)

現場を無視した上意下達の「IGASスクール構想」に反対しながら、学校現場からICTに関する教育実践をどう組み立てていくのが今後の大きな課題です。学校のICTが教員の事務作業の省力化や学びの一つのツールとしての効果はありながらも、これまで積み上げてきたリアルな教育の価値を否定できません。個人と「学力」を紐づけしマイナンバーにまでつながる監視社会の恐れや将来の健康被害など数多くの問題を学び合いました。



教育条件をよくする運動分科会

【国語教育分科会】

倉田亜由美さん (所沢・小学校)

物語文を読む楽しさは、登場人物の気持ちに寄り添い同化しながらその気持ちを想像することだと考えます。さらに人物を異化し、自分の思いや考えを感想や意見として素直に出すことも楽しみの一つです。比喩や複合語など文学的な表現に着目し、なぜその言葉を使っているのか、叙述をもとに考えたことを共有します。自分の読みを友達に伝えたり、友達の発表を聞いたりしながら、読み進めることによって、本来の意味での「主体的、対話的、深い学び」が生まれると考えます。子ども達とともに楽しく読み進めた「スーホの白い馬」の授業の実践を報告しました。



国語教育分科会

市民と野党の共闘をあきらめない ～衆議院総選挙の結果～

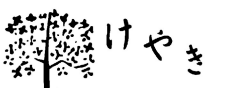
私たちはオール埼玉総行動をはじめ「市民と野党の共闘」を積み上げてきました。野党間では国民の命とくらしを守ることを第一にした「共通政策」「政権協力」「候補者協力」をつくり出しました。

一方、政権与党は菅前首相から岸田氏に看板をすげ替え、総裁選をメディア利用し、新政権もコロナ危機を反省することなく、野党共闘を批判することで有権者を惑わせ、低い投票率の中で自公政権の継続と補完勢力の伸長を許す結果となりました。

「政権交代」は叶わなかったものの、候補者を一本化した選挙区の勝利と接戦という共闘の効果は、この道への展望を与えるものでした。しかし、3分の2を超える改憲勢力となった新たな衆議院議員構成は心配です。私たちは、「憲法守れ、平和を守れ、命を守れ」と、市民と野党の共闘とともに声をあげ続けていきます。

青年教職員も集まりました！

午前中には、関東甲越の青年教職員たちも学習交流集会を開催しました。所沢高校をサテライト会場とし、群馬高教組の田中さんが「ようこそ先輩」組合やつて何がある？ しかった？ なぜ続けているの？」という話題でお話をしてくれました。最終的に66人の青年教職員たちが参加。会場には関東甲越のご当地お菓子を持参し地域の魅力も紹介しました。



用意したアクリル版が座つて話すことを前提にしたもの

わたしは、さびしくない。私の後ろには大衆がいるから」 わたしは、その大衆の一人でありたいと(き)

なんと会場準備から駐車場誘導まで未組の青年と休んでいる組合の若者も来てくれた。OBが来てくれる、しかも署名を持って。愚痴が多い自分達を多くの人達が支えてくれている。一人の病休者のために遠くから駆けつけてくれる書記長がいる▼山本宣治の言葉を思い出す。「わたしは、さびしくない。私の後ろには大衆がいるから」 わたしは、その大衆の一人でありたいと(き)

今、県内の15自治体で学校統廃合計画が進められています。併せて義務教育学校や中高一貫校の設置、しかも大規模校が計画されている自治体も。

私がこの数年間関わった鴻巣、毛呂山、三郷等の学習会から見えてくるものがあります。教育委員会は、学校統廃合を推進する際に必

教育文化
研究所
コーナー

がかかる等の財政的な理由(コストカット)が根拠として強調されます。背景に総務省指導の「公共施設等総合管理計画」があるからです。

また、予め想定原稿があるからです。そこに

何のための学校統廃合か

「児童数と学級数の推移」を提示します。機械的に人口比に合わせた学級規模も、更に「大規模改修」「新校舎建設」に膨大な費用

「少人数では切磋琢磨できない」「単学級ではクラス替えもできない」「『中一ギャップ』『いじめ』をなくすた

は地域の特性や子どもの状況は浮かび上がってきません。また地域における学校はどんな意味を持つのかも述べられません。

学校は学びの場であり地域の文化交流、避難場所としての拠り所です。学校統廃合問題を考える埼玉交流会(12/4 13時半 教育会館)にぜひ参加し「小規模学校のよさ」「学校の役割」を一緒に考えませんか。(事務局 山内芳衛)

教職員なら全教共済

共済開始は2022年1月から

秋募集

お申込はお急ぎを

募集期間 11月30日まで

生命共済
医療共済
傷害共済

全教共済

助け合いの輪を広げよう

総合共済

退職時には掛金が全額戻るよ!

掛金は月々わずか 600円

あと74人で目標達成

うちの共済 見積りキャンペーン

見積りは図書券500円分

成約はハーゲンダッツギフト券

12月から各支部で退職予定者共済説明会はまいります

【埼玉組共済会】048-824-2759 saikyouso@kyouiku-net.org
自動車保険・がん保険【(有)むさしの保険事務所】048-833-1918



第294回中央委員会
オンラインにて開催



10月24日(日)、埼玉組第294回中央委員会を開催しました。冒頭の経過報告では、夏季休業延長に伴う、オンライン授業を筆頭とした数々の混乱に対する埼玉組のとりくみや各段階での当局に対する申し入れ等の行動は大きな反響があり、さいたま市ではトップダウンの市政に声を上げる組合の姿に労働組合の重要性を見出した青年が組合加入したことが報告されました。

吉川単組では、3か年

計画で議論が進んでいる「単組合同」に向けた1つのとりくみとして、吉川市教委交渉に八潮単組の組合員が参加した経過を報告。市教委側も他市の組合員の参加を煙たがらず受け入れ、他市のとりくみについても耳を傾け、意味のある交渉になったことが報告されました。専門部からはこの間のとりくみについて発言がありました。青年部では、教採学習会の実施で新たな仲間を迎え入れたことや、常任同士の交流も深めることができたことが報告されました。栄養職員部では、この間学習会に足を運んでくれた青年が遂に加入といった嬉しい報告がありました。

11月末までが第2期加入促進期間となっています。3か年計画にもとづく今年度新規組合加入目標達成まで35名です。今年度新たな仲間を迎えられていない組織は「頼りになる埼玉組」の姿をしっかりと見せる化し、私たちの要求実現のために前へ進んでいきましょう。

第一号議案に関わる討論では、様々な視点からの発言がありました。一つは県教委が「あつてはならない重大な事態」としながら毎年各地で起こっている深刻な未配置・未補充による現場実態が報告されました。事前にわかっている産休代替すらも配置されない状況に当局だけではなく、現場の校長や職員までもが代替を引き受けてくれる人を探しているような現状に、根本的な制度設計から見直すべきではという指摘もありました。

単組からの発言では、川口単組からオンライン併用で開催した教研についての報告、病休者を続出させているパワハラ管理職の問題についての報告がありました。八潮単組からは、分会で行った教採学習会のとりに紹介された組合の加入用紙が「組合の加入用紙が欲しい」と声があったことが報告されました。

吉川単組では、3か年

「市教委は私たちの労働条件改善に責任を持って！」
さいたま市教組賃金確定交渉(10/28)

市教委は教職員の12月期の一時金を0.15月削減、再任用教職員の一時金を0.10月削減すると提案しました。平均で5.9万円の賃金削減であり、市全体の影響額は8.8億円になります。

教職員は、コロナ禍で子どもたちの健康と安全に気を配り、オンライン授業などの新たな負担が増える中で、一時金削減は全くふさわしくないと抗議の発言が相次ぎました。少ない教職員定数の中で、学校運営に欠かすことのできない会計年度任用職員(非常勤講師)の一時金は、「市長部局の動きを見て判断する」などという無責任な姿勢をあらわにしました。働く者の労働条件を決める「確定交渉」にあり得

い当局の姿勢です。GS(グローバルスタディ)専科の全校配置の進捗状況が示されず、非常勤講師は継続雇用されるのかどうか見通しが立ちません。PCを使って客観的な勤務時間を測定する新たなシステムには問題が多く、入力に困難をきたしています。挙句には土日の出勤時に入力しない教職員が出る始末です。相次ぐパワハラを根絶するために、市教組は緊急アンケートの実施を要望しました。県費から市費となった権限移譲後のさいたま市の教職員は、それまであった「子育て休暇」を失いました。「子育てするならさいたま市」と掲げながら、依然として「子育て休暇」を復活させようとしません。妊娠者教職員が産休

に入る月の初日から代員を措置するという「先読み加配」を実施して先進性を、広く周知することを求めて交渉を終了しました。



さいたま市教委との交渉の様子